

令和5年度 学校関係者評価委員会資料

内子町立五十崎小学校

- 実施期日 (前期) アンケート：令和5年7月・評価委員会：令和5年10月11日
(後期) アンケート：令和5年12月・評価委員会：令和6年2月7日
- 対象 保護者(62名)、児童(81名)、教職員(13名)
- 学校教育目標 ふるさとを愛し、たくましく生きる五十崎の子を育てる
- 集計と考察

評価結果(平均ポイント)とは、アンケート調査の回答を「A:そう思う」4点、「B:だいたいそう思う」3点、「C:あまり思わない」2点、「D:思わない」1点として集計したもので、満点は4点になる。なお、「分からない」については除外している。

(昨年度後期【R4】と今年度前期【R5】の平均ポイントを記載している。)

項目	番号	評価者	質問項目	自己評価			R5 考察及び改善方策	学校関係者評価	
				平均ポイント				評価委員会からの意見・要望等	
				R5後期	R5前期	R4後期			
1 確かな学力(学習指導)	①	児童	あなたは、学校の授業が、よく分かりますか。	3.5	3.6	3.6	○ 基礎基本の定着をめざし、ゲーム的要素を取り入れながら「聞く力」を高める訓練をしたり、クイズ形式で復習を行ったりしており、今後も継続して取り組んでいきたい。自分の考えを言葉や文章に表したり、条件に合わせて要約したりする活動が苦手な児童が多いので、学習時間を十分に確保したり、家庭学習に取り入れたりするなどの工夫をしていきたい。	A ・ B ・ C	※A・B・Cを、3・2・1として評価 2.9(前期) 2.8(後期) ・タブレット端末の持ち帰りが増えてくるようだが、効果的に使ってほしい。 ・タブレット端末の使用については、学校だけでなく、家庭でも指導していく必要がある。
		保護者	お子さんは、基礎的・基本的な学力が身に付いている。	3.1	3.0	3.1			
		教職員	学校は、個々の実態に合わせた、児童の学力の定着や向上に努めている。(月末テストへの取組、活用力が求められる学習課題の設定等)	3.1	3.3	3.4			
	②	児童	あなたは、宿題や自主勉強などに、進んで取り組んでいますか。	3.5	3.5	3.4	○ 各教科、学習内容に応じたプリント学習、自主学習ノートの仕方等、工夫して取り組んできた。自主学習ノートについては、取り組み方に差が見られるので、良いノートを掲示したり、自主勉強コンテストを行って互いのノートを見たりして、客観的に評価したりしている。家庭学習の習慣化は、家庭の協力が不可欠である。毎月実施している生活リズムチェックを活用し、生活の見直しや改善への指導、家庭との連携を図っていきたい。	A ・ B ・ C	2.5(前期) 2.6(後期) ・学習習慣が付いてなかったり手助けが必要だったりする児童に対する配慮をお願いしたい。 ・宿題が多いという保護者の意見もあるが、家庭学習は大事である。今後も継続して、取り組んでもらいたい。
		保護者	お子さんは、進んで家庭学習をしている。	2.8	2.6	2.7			
		教職員	五十崎小の児童が、学年に応じた家庭学習の習慣が身に付くよう、支援や指導をしている。(適切な課題設定、保護者の家庭学習の見届け、未提出者の支援等)	3.1	3.4	3.5			
	③	児童	あなたは、進んで読書をしていますか。	2.9	3.2	3.0	○ 読み聞かせやブックトークがあるものの、後期は学校行事が多かったこともあり、読書活動に十分な時間の確保ができなかった。今年度は、読書週間に合わせて、いろいろなジャンルに挑戦する読書ビンゴを行ったが、読書に対する個人差が大きいので一人一人が読書に関われるような工夫を行いたい。また、宿題による読書を取り入れることで読書に親しむ児童が増えてきた。あまり本を読まなかった児童も少し読書をする習慣が身に付いたように感じる。	A ・ B ・ C	1.9(前期) 2.2(後期) ・電子書籍やタブレット端末を使って本を読む良さもあると思うが、図書室を利用する良さも伝えていくことも大事ではないか。
		保護者	お子さんは、進んで読書をしている。	2.7	2.3	2.5			
		教職員	五十崎小の児童が、進んで読書活動ができるよう、図書の設定や場の設定を行っている。(読書に触れる学習の場の設定、朝読書、国語科の関連図書読み広げ等)	2.9	3.1	3.4			

2 豊かな心 (生徒指導)	①	児童	あなたは、毎日、楽しく学校に通っていますか。	3.7	3.7	3.6	○ 多くの児童が、学校生活が楽しいと感じている。今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、様々な制限が解除され、従来の学校生活・教育活動が行えるようになった。学校が、児童にとって安心で安全な場所になるよう、互いに相手の気持ちを考えた言動をとるとともに、助け合い・支え合うことができる人間関係の構築に向け、学校の教育活動全体で児童の育成を図っていききたい。	A . B . C	2.8(前期) 2.8(後期) ・楽しく学校に行けるのは、家庭が安心できる場所であり、学校が安全を確保しつつ児童を温かく見守っている成果だと感じる。
		保護者	お子さんは、楽しく学校生活を送っている。	3.5	3.5	3.5			
		教職員	五十崎小の児童が、明るく元気に学校生活を送ることができるよう、手立てを講じている。(日課や行事の無理のない計画、教育相談の実施、個々の特性を踏まえた学級経営等)	3.5	3.5	3.5			
	②	児童	あなたは、みんなはと仲よくできていると思いますか。	3.6	3.5	3.6	○ 縦割り班での活動を通して上学年と下学年の関わりが増え、仲良く協力している場面を多く見る事ができた。また、五十崎スマイル大作戦では、他学年の友達にってもらってうれしかったことを書いている児童も多く、思いやりの気持ちを持って互いに関わっていると感じた。この関わりを継続して支援していきたい。毎月の学校生活アンケートや教育相談を定期的に行っており、児童一人一人の困り感や悩み、児童間のトラブル等を把握することにつながっているため、今後も児童にとって安心できる環境作りに努めたい。	A . B . C	2.7(前期) 2.8(後期) ・大きな問題もなく、不登校の児童がいないのは、大変素晴らしい。先生と児童、児童と児童それぞれの関わりを今後も大切にしていきたい。 ・今後も現状のように、思いやりのある校風を大切にしていきたい。
		保護者	お子さんは、友だちを大切に、仲よくしている。	3.6	3.5	3.6			
		教職員	五十崎小の児童が、善悪の判断ができ、思いやりのある行動がとれるよう手立てを講じている。(異学年交流、学級の仲間づくり、人権・同和教育の実践、生命を尊重する態度等)	3.6	3.5	3.5			
	③	児童	あなたは、あいさつや返事が、進んでできていますか。	3.6	3.7	3.4	○ 朝の登校時には、気持ちのよい挨拶ができる児童が多く、相手の名前を呼んで挨拶を交わす習慣も身に付いている。上学年が挨拶の手本となっており、下学年にもその態度が伝わってきている。前期は、PTA登校指導で、挨拶の個人差が気になるという報告が多かったが、後期は同様の報告が少なくなってきた。今後も機会を捉えて指導したり、集会や生徒指導通信で啓発したりして、地域での挨拶の意識向上に努めたい。	A . B . C	2.9(前期) 2.7(後期) ・登下校以外でもしっかりと挨拶してくれる児童が多い。小学校から身に付いていることなので、中学生になっても挨拶ができていく。 ・横断歩道で停まってくれた車におじぎををしていた児童がいて気持ちがよかった。
		保護者	お子さんは、あいさつや返事が進んでできている。	3.1	3.1	3.1			
		教職員	五十崎小の児童が、基本的な生活習慣が身に付くよう、支援や声掛けをしている。(気持ちの良い挨拶・返事、履物の整理、時間順守、早寝早起き朝ご飯等)	3.5	3.4	3.5			
	④	児童	あなたは、進んでお手伝いや仕事をしていますか。	3.4	3.5	3.4	○ 学校では組織の一員としての意識が高い。委員会や係活動等は、役割分担や毎日の習慣化された活動として、ほとんどの児童が積極的に取り組むことができる。また、「家で手伝いをしている」「決まった仕事がある」という話も児童からよく聞かれる。言われたら手伝う児童も多いようなので「進んで」のところで、保護者と児童では認識の違いがあるように感じる。継続して、手伝いの大切さを啓発していきたい。	A . B . C	2.3(前期) 2.2(後期) ・進んでできるに越したことはないが、頼まれた仕事をしっかりとできれば、家族の中での役割は十分だと思う。
		保護者	お子さんは、進んでお手伝いや仕事をしている。	2.9	2.8	2.7			
		教職員	五十崎小の児童が、委員会活動や給食当番、係活動等に積極的に取り組めるよう、工夫や改善をしている。(自治的活動の支援、より良い仲間づくりを意識した企画・運営等)	3.4	3.4	3.3			

3 健康・安全 教育と管理	①	児童	あなたは、進んで、遊んだり運動したりしていますか。	3.5	3.5	3.5	○ 学校生活の中では、児童に声を掛け、休み時間に外遊びを楽しめるように努めている。ふれあい班遊びや休み時間等において、集団で遊ぶ楽しさを味わえる時間を、今後も継続していきたい。また、授業内でも、ITスタジアム等に積極的に取り組むようにしたい。家庭では、ゲームやメディアの時間が増え、屋内での遊びが多いように感じている。通信等を利用して、適切なゲームやメディアとのつきあい方について啓発していきたい。	A ・ B ・ C	2.5(前期) 2.5(後期) ・体力作りは、日ごろの遊びや家の手伝いから生まれるのでメディア漬けの現代の子供には難しい。
		保護者	お子さんは、進んで遊んだり運動をしたりして体力づくりをしている。	3.1	3.0	3.2			
		教職員	五十崎小の児童が、進んで遊んだり運動をしたりして、体力増進に努められるよう支援や声掛けをしている。(休憩時間の確保、体力作りの習慣化を目指した支援等)	3.0	3.3	3.2			
	②	児童	あなたは、安全に気を付けて、行動できていますか。	3.6	3.8	3.7	○ 今年度は夏季休業前に、PTAの健全育成部と協力して危険箇所の危険旗設置を行い、設置箇所について生徒指導通信でお知らせした。今後も危険箇所等については、情報発信・情報共有していくようにしたい。また、災害時の引き渡し訓練や不審者対応訓練等、実際の災害避難時を想定した児童や職員の動線を見直し、より安全性の高い行動がとれるよう改善を行っていききたい。さらに予告なしの避難訓練を増やしていき、自分の命を自分で守る児童の育成に力を入れていきたい。	A ・ B ・ C	2.8(前期) 2.9(後期) ・朝の登校時間でも、通学路を歩いている子供の横を平気で猛スピードで走る車を見かける。注意喚起するような表示が必要だと思う。
		保護者	教職員は、子どもの安全指導や安全対策に努めている。	3.5	3.4	3.5			
		教職員	学校は、学習の場にふさわしい環境の整備に努め、安全・安心な学校生活の実現に向けて努力している。(感染症対策、学習の過程を重視した掲示物、協調・協働した学習の場の設定等)	3.3	3.4	3.5			
	③	児童	あなたは、「早寝・早起き・朝ご飯」はできていますか。	3.4	3.5	3.4	○ 生活リズムチェックを毎月一週間実施し、自分の生活を見直す機会を持っている。この一週間は特に意識して生活している児童も多くみられる。しかし、朝食欠食、睡眠不足、長時間ゲームをしている児童もいる。児童と保護者そろってゲームやSNSの時間が長い家庭もあるようである。保護者の協力が不可欠な内容だけに、今後も学校生活の中でも折に触れ指導するとともに、家庭への協力を啓発していきたい。	A ・ B ・ C	2.3(前期) 2.2(後期) ・ゲーム依存、SNSトラブル、生活習慣の乱れなど、家庭の教育力によるところが大きいと思うが、学校としても、家庭への啓発も含めて、できる限りの対応をお願いしたい。
		保護者	お子さんは、「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣が身に付いている。	3.2	3.0	3.1			
		教職員	五十崎小の児童は、衣食住に関する基本的な生活習慣が身に付いている。(早寝・早起き・朝ご飯の習慣、時間を守った生活、家庭学習の習慣等)	3.2	3.0	3.3			

4 家庭・地域との連携	①	児童	あなたは、困ったときに、先生に相談できますか。	3.2	3.3	3.3	○ 学校生活に関するアンケートや個別の教育相談を実施し、児童の話の聞いたり実態を把握したりしている。児童から相談を受けた際には、教職員間で情報を共有し、多くの目で児童を見守っていけるようにしていきたい。また、欠席が気になる児童については、保護者に電話したり、家庭訪問等を行ったりして、積極的な生徒指導を行い、いじめ・不登校の早期発見・早期対応に努めていきたい。 家庭からの連絡で、子供どうしのトラブルを把握することが何度かあった。学級担任と生徒指導主事が協力して、いじめに繋がるような言動には厳しく対応している。	A ・ B ・ C	2.8(前期) 2.8(後期) ・その都度、丁寧に対応していることが、今の落ち着いた学校生活につながっていると思う。子供に寄り添った丁寧な対応を今後も継続してほしい。
		保護者	教職員は、子どもや家庭からの相談に適切に対応している。	3.5	3.3	3.3			
		教職員	学校は、いじめ・不登校・問題行動等の防止に、全教職員の共通理解の下、組織的に取り組んでいる。(いじめを許さない徹底した態度の育成、連続欠席を防ぐ対策、善悪の判断等)	3.5	3.8	3.6			
	②	児童	あなたは、登下校の時など、家族や地域の人に、見守られていると感じますか。	3.6	3.6	3.5	○ PTAによる毎月の街頭指導や駐在所連絡協議会パトロールの下校指導等、たくさんの方々にいろいろな場面で学校の教育活動に関わっていただいております。それを子供たちが実感しているように感じる。今年度から「五小部会」という新たな枠組みでコミュニティスクールをスタートさせた。学習場面や運動会、アルミ缶回収では、すでに地域の方にたくさんご協力いただいている。2学期には熟議を行い、五小部会として目指す子供像を共通理解することができた。まだ、手探りの段階だが、今後、コミュニティスクールを充実させ、学校と地域の連携の充実を図っていきたい。	A ・ B ・ C	2.6(前期) 2.5(後期) ・下校時に低学年の保護者がよく迎えに来ていて、子供たちを見守る姿勢があるように感じる。 ・子ども相撲など、地域を生かした五十崎小ならではの活動を大切にしていきたい。
		保護者	教職員は、保護者や地域との連携・協力を努めている。	3.4	3.3	3.2			
		教職員	学校は、保護者や地域と連携・協力して教育活動にあたり、学校の情報をわかりやすく保護者や地域に伝えようとしている。(コミスクの取組、学年通信・校報、学校行事、児童支援のための連絡等)	3.5	3.3	3.5			